

## 第2回北信越ブロッククラブミーティング2010 開催報告

平成22年11月6日(土)、7日(日)と富山県射水市「射水市小杉社会福祉会館」にて、第2回北信越ブロッククラブミーティング2010が開催された。

第1日目は、『元気と明るさを持ち帰る』ことをテーマにクラブブースめぐりをし、先輩クラブの運営取り組み状況、アドバイスを見て聞いて、クラブ設立への準備に取り組む姿勢を学ぶ機会となった。

長野県、新潟県、富山県、石川県、福井県より各県2クラブずつ、合計10クラブが前後半に分かれて紹介し、最後には参加クラブへ応援メッセージが送られた。



### クラブ紹介・ブースめぐり・応援メッセージ

#### 前半



(仮称)高山村総合型スポーツクラブ(長野県:深谷事務局長)は、高山スタイルと称して地域特性である自然を生かしたプログラムを企画し、他では取り組みが少ないツリークライミングや山中での吹き矢教室を展開。大変人気のあるプログラムとなっていることを紹介された。村で培われた技術を伝えることも忘れていないとあった。

田上町総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会(新潟県:小林委員長)は、拠点となる施設がなくクラブ活動の展開を悩んでいるが、文化事業も取り入れた健康づくり、子どもの体力向上事業を進めていくと紹介した。

立山連峰スポーツクラブ(富山県:山田クラブマネジャー)は、目先のことも着実にこなしていくことも大事だが10年後の姿を描き事業を行っていることを伝えた。クラブからオリンピック選手を輩出することを目標にしたプログラムも展開している。また広報誌には活動写真を掲載し、体を動かしたくなる言葉と共にクラブPRを重ねている。

NPO法人もんぜんスポーツクラブ(石川県:池田クラブマネジャー)は、施設管理をおこないプログラムを展開する苦労もあるが、利用者への特典を設けることでメリットを感じてもらえる取り組みを紹介。地域の合併を機にスポーツ参加者を募るよう行政との協力体制を築いている。



**吉野総合型地域スポーツクラブ 吉楽（福井県：片山副会長）**は、支援（お金）があるときは事業の



拡大、会員の増加と活気がでていたが、支援が終了すると共にマンネリ化や停滞気味といった元気がみえなくなってきた。しかし一度点いた火は簡単に消せないと奮闘し、ニーズの高い種目をメインに今後は介護予防運動にも力を入れ、地域貢献につながる活動を展開していく計画を立てていると紹介された。

各クラブからは、失敗を恐れず、今（準備期間）だからこそ出来る事（ニーズ調査やプレ事業）がある。やってみなければわからない！といったメッセージをもらった。

## 後半

**千曲アプリコットスポーツクラブ（長野県：富松クラブマネジャー）**は、子どもにスポーツを始めさせたい保護者との接点から、2ヶ月に一度キッズフェスティバルを開催する事に至った。また保育園への巡回サッカー教室を実施し、クラブのPRを兼ねて会員確保へと取り組んでいる。待ちの姿勢ではなくクラブが出向く手法をとっている。

**総合型クラブ チャレンジ夢クラブ西山（新潟県：伊比クラブマネジャー）**は、運営スタッフ不足、運営経費の確保、クラブ事業など課題が多く、形だけではなく中身のあるクラブを創っていきたいと地域・クラブに対する情熱で紹介いただいた。



**庄川スポーツクラブアユース（富山県：寺井理事長）**フラメンコやフラダンス、ヒップホップといった音楽付きの地域ニーズに対応したプログラムを展開している。また日々の活動成果を紹介できるよう、スポーツフェスティバルを開催し、クラブの様子も見てもらっている。

**特定非営利活動法人モア（石川県：谷クラブマネジャー）**は、関係諸団体への理解を得られずに苦労した点も多く、当初は2教室からのスタートも現在は19教室に発展するまでとなった。『農業体験塾』は食への理解と認識、『自然野外体験』ではそば打ちや川での生息動物の勉強といった体を動かすことだけではない活動も展開している。

**せいきコミュニティスポーツクラブ（福井県：四谷ゼネラルマネジャー）**は、スポーツ諸団体の活動に参加していない、運動に取り組んでいない地域住民を主たる対象者として活動している。クロスカントリーやノルディックを中心にイベントも盛大に開催している。活動の成果をみて、行政のサポートも少し得られるようになってきた。

クラブづくりは、共有できる仲間をいかに増やすかが大切、地域から愛されるクラブとなるには、地域のニーズ把握と地域の特徴をクラブで活かすことが大事であるとメッセージを贈った。



まとめでは、榎班長より「今クラブにどんな人が必要?」「あなたの役割は?期待されることは何?」と問いかけられると、「カリスマ性のあるヒト」「女性」「人が集まってくるヒト」など挙げた。ヒト・モノ・カネ・情報資源を活用していく中でも、色んなヒトを巻き込まなければならないとあった。「クラブは人なり」。

今回、紹介して下さったクラブは活動エリアの小さなクラブが多かった。小さいなりに自分たちの特徴をいかに売りにし、存在を高めていこうとする取り組みが紹介された。大きな成果としてはまだ時間がかかるかもしれないが、やらなければ見えてくるものも、叶うものもないといったことを伝えていたように思う。

**“何事も初めは 夢でなければ 始まらない  
夢を語ろう 夢を創ろう 夢を実現しよう”**  
(高山村総合型地域スポーツクラブが紹介された  
言葉が印象的でした。)



第2日目は、自立支援クラブ、県総合型クラブ連絡協議会加入クラブより約80名のクラブ関係者が参加した。今回のテーマは「クラブビジョンとビジネスプラン～自立したクラブのあらたな一歩～」クラブ運営へのプランをどのように立て、どのような運営をしてきたのかを3クラブから発表いただいた。

### 事例発表

NPO法人新発田市総合型地域スポーツクラブ(新潟県:市川裕代クラブマネジャー)は、事業展開のみならず指導者派遣事業を行い、小学校や幼稚園・保育園にもレクリエーション指導者を派遣し地域のニーズをクラブが窓口となりスポーツ活動を支えている。またクラブ分析をおこない、参加者数や経費といったことも教室ごとに確認し、継続事業の展開が図っていただけるかの見直しに取り組んでいるとあった。

杜の里スポーツクラブ(石川県:森亮太クラブマネジャー)は、地元学生との連携を図り事業を展開しているのが特徴であり、事務局も学生が担っている。地域住民のほとんどが学生であるという地域特性から学生が求めていることをクラブで発揮してもらえらる学びの場になっているとあった。学生という見方もあるが学生ならではの成果・課題もみえ、地域にある限り地域が支えるクラブとして必要なクラブにしていきたいと紹介された。



NPO法人ふくのスポーツクラブ(富山県：寺井克明事務局長)は、文部科学省の補助事業からスタートしたが設立から14年の時を経て、NPO法人格の取得、指定管理者となり現在は4,000名の会員が活動するクラブとなっている。会員を増やしていくにも何もしなければ増えていかない、何をするのが、事業展開やイベント、指定管理という行動を起こしてきたものに取り組んだ成果だとあった。これから歴史をつくりあげていけるよう、タイミングやチャンスといったものを逃さないようにしていきたいとあった。

### グループディスカッション

下記、ディスカッション項目より2つのテーマを選択し、グループディスカッションをおこなった。

会費設定	財源の確保
事業(教室・イベント)	スポンサーシップ
広報活動	他団体との関わり
活動施設	

#### 【主な意見】

##### 会費の設定

- ・ブランド化を図っていくことで充実度を増していく。
- ・指導者の質をあげていくことも大切。
- ・他団体とのコラボレーションを図り、メリットとつける。
- ・総合型でしかできないプログラムの開発をしなければいけない。

##### 事業(教室・イベント)

- ・一からの事業スタートではなく、既存の活動を活かしていく
- ・底辺拡大となる種目に取り組む
- ・スポーツ少年団とのタイアップでクラブから指導者派遣を実施
- ・事業の見直しを行っている(月1回、もしくは3ヶ月に1回くらい)
- ・教室の収支バランスを考えている
- ・事業展開には、流行をいかにキャッチするかである

##### 広報活動

- ・自分たちが実際に活動をして具体的に何をしているのか、スポーツ少年団へ説明し理解してもらう必要がある
- ・ケーブルテレビを活用してPRする
- ・広報のタイミング、クラブカラーやキャラクターを活かす
- ・ヒトの声をのせたチラシを作って顔が見える誌面づくりを工夫した



## 活動施設

- ・保護者の中に指導者がいる
- ・身近な施設を活用する
- ・付加価値のある教室にする
- ・小学校や地域の学校を利用する

## 財源の確保

- ・助成金（toto）がなくなったらどうするのかを  
考えなくてはならない
- ・事業エリアの拡大で会員増を図っていく
- ・スポンサー、協賛の可能性を探っていく、広告費を集める
- ・一活動あたりの原価計算をおこなう

## スポンサーシップ

- ・地元還元したいということで大きなスポンサー料を  
いただいている
- ・モノでのスポンサーもある（大会の商品、記念品）
- ・クラブ運営に対してのスポンサー、プログラム（事業）  
のスポンサーが見つからないだろうか
- ・スポンサーシップの在り方を考えなければならない

## 他団体との関わり

- ・合併したことにより、行政との関わりが遠のいてしまった
- ・体育協会事業と総合型クラブのすみわけをおこない、対象者を明確にしていくことが必要
- ・小さいクラブはネットワークの拠点が必要



最後のまとめでは、榎班長より、クラブの強み、弱みをしっかりと把握することが必要である。総合型クラブの「人のつながり」「コミュニティー」などを大切にしていけること。会員の為に、会員と共にクラブのプロダクトをしっかり立てていくことが大切であると締め括った。